

「在宅・維持期～終末期は生活の場であり、科学的根拠に基づく医療（EBM: Evidence-based Medicine）と共に、本人・家族が主観的に経験する体験を尊重した医療（NBM: Narrative-based Medicine）が非常に重要。その意向や経済的側面など環境因子に留意した治療方針の立案を行っています」と、診療の基本姿勢を話す平野さん。

大学病院口腔外科での臨床経験を活かし2010年4月から、アンプル歯科（福岡市南区）にて訪問歯科診療をスタート。以来、一般歯科治療にとどまらず摂食・嚥下障害にも関心を寄せ、主治医との連携のもとで嚥下内視鏡検査（VE検査）や食事場面観察等に基づいた「食支援」に精力的に従事しています。併せて在宅療養の要を担うケアマネージャーや介護職に対する啓蒙や、多職種連携・ネットワーク活動にも積極的に取り組んでいます。

本セミナーでは、患者家族や介護職の皆さんに役立つ食介助・観察のポイントとともに、歯科を中心した多職種連携による取組みなど、「食支援」の最前線をお話ししていただきます。